

# 知床・斜里の近世年表

宇仁義和

099-2493 網走市八坂196, 東京農業大学術情報課程 (オホーツクキャンパス)

## Timelines of the Early Modern Shiretoko and Shari

UNI Yoshikazu

Museum Course, Okhotsk Campus, Tokyo University of Agriculture, 196 Yasaka, Abashiri, Hokkaido 099-2493, Japan.  
[unisan@m5.dion.ne.jp](mailto:unisan@m5.dion.ne.jp)

### はじめに

年表は歴史を概観し理解するための便利な道具である。対象とする地域と年代を区切ること、宇宙史や全地球史といった地質学的内容から家族史や自分史まで、さまざまな段階での作成が可能である。たとえば知床や斜里の出来事を、日露両国を初めとする探検史に位置付けることや、客観的な記録を残した欧米人による報告が何年頃のものであったかを一望すること、また北海道の通史やアイヌ文化史のなかで理解する上でも役にたつであろう。

そこで本論では、知床と斜里の近世から近代初期のできごとや文献について、幕府の政策や北方探検、ロシアをはじめとする外国勢力の来訪などと対比して理解する手助けとして、年表を作成した。

### 材料と方法

年表の記載事項は、斜里や知床に関する(1)重要なできごと、(2)地理的探検や視察、(3)報告文書、(4)場所請負人、そして、(5)北海道の行政区分とし、とくに重要と考えた事項はゴシック体にした。用いた資料は、斜里や知床に関しては『網走市史』(田中1958)を基本とし、その後明らかとなった松浦武四郎の報告などをあわせたほか、『斜里町史』(斜里町史編纂委員会1955)を参考にした。北海道の行政区分は『アイヌ政策史』(高倉

1942)と『新撰北海道史』(北海道庁1936a, b)を参考にしたが<sup>3</sup>、時代名称は両書に見られる固有名詞ではなく一般的な表現とし、安政年間の幕領時代は実際の直轄年代からとした。和暦と西暦の対照は若尾ら(1972)によった。ロシアや欧米各国によるオホーツク海や北西太平洋など北方探検航海については原報告のほか、『シベリアに憑かれた人々』(加藤1974)、『千島・シベリア探検史』(北構1982)、『幕末日露関係史研究』(郡山1980)を、とくに千島列島に関しては川上(1996)を参考に記述した。外国人の航海や探検は多くを占めるロシアによるものは注記をせず、ロシア以外の国については通常用いられる略称で注記した。

記述内容は重要度にしたがい取捨選択し、記載事項の無い年代は省略した。史料のうち、手書き提出の報告や刊行されていなかった手書きの記録(稿本)は鍵括弧「」に、版本は二重鍵括弧『』に入れた。探検や踏査の年代と報告書の成立年が異なる場合は、探検や踏査の年代に記載することを基本とした。探検や航海が複数年にわたる場合は、その初年または特定のできごとの年に記載した。また、松浦武四郎は「武四郎」と略記した。記録や報告について活字本が刊行されている場合は引用で示し、大部の活字本で目次から斜里や知床の記事の特定が困難な場合は、記述個所のページ数を書き加えた。外国文献の場合、和訳本がある場合のみ記載した。

## 結果

作成した年表は以下の3つである: 知床・斜里近世年表(表1), 蝦夷地・北方探検年表(表2), 知床・斜里近代初期年表(表3)。以下, 各年表から読み取ることができる斜里や知床の特徴を紹介する。

### 1. 知床・斜里近世年表

近世史料の多くは1790年代から1800年代(寛政・享和・文化年間)と1840年代から1860年代(弘化・安政年間)に集中している。前者はクナシリメナシの戦いの後処理として実施されたシャリ場所分設, 幕吏による北方探検や斜里駐留の報告であり, 後者は松浦武四郎による踏査報告と東西蝦夷地幕領化後の老中や藩主に派遣された役人などの紀行である(表4)。

1808(文化5)年から1844(弘化1)年の間の史料やできごとは「シャリ場所死亡人控」と「津軽藩士殉難供養碑」の建立, 「斜里神社石灯笼寄進」に限られ, 斜里の様子を伝える資料がほとんどない。なお, 例外として標津でアイヌ語通訳(通詞)を勤めた加賀伝蔵の1818(文政1)年から明治初年にわたる日記や記録類「加賀屋文書」(秋葉1989)がある。

### 2. 蝦夷地・北方探検年表

外国人による北海道の報告のうち, アンジェリスとド・フリースの2点は1600年代前半ときわだつて古い。

根室や宗谷には外国船の来航が見られるのに対し, 斜里や知床への到来は一度もない。

天明年間, 寛政・文化年間の幕府の調査でも知床半島は未踏査である。

### 3. 知床・斜里近代初期年表

明治維新以降1878(明治10)年までの現地踏査の記録は, ブラキストン, 松本十郎, ライマンに限られる

開拓使や三県一局時代の組織的な調査はなく, 官吏の巡視日誌に限られる。

1880年代末(明治20年代初め)になって本格的

な調査や報告が現れ, アイヌ家屋の写真(ヒッチコック1985), 土地や自然の状況(北海道庁第二部殖民課1986; 河野1988), 駅通や住民の横顔(佐藤1890)などがわかるようになる。

## まとめ

おなじ蝦夷地の遠隔地であっても根室や宗谷は松前からの航路が早くから開け, 後にはロシアの侵攻対策として再三の幕府調査が派遣され史料も多く残された。これに対し, 蝦夷地航路の最深处で国策上の重要事項も見られなかった斜里や知床は結果的に知識の蓄積が低いままに置かれた。土地や自然の状況, 住民の様子が明かになり, 写真が撮影されるのは1880年代末(明治20年代初め)のことであった。

## 引用文献

- 秋葉實(解説)・松浦武四郎(著). 1982. 丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌 上下. 515 pp., 520 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 秋葉實(解説)・松浦武四郎(著). 1985. 戊午東西蝦夷山川地理取調日誌 中. 702 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 秋葉實(編)・加賀伝蔵(筆録). 1989. 加賀家文書. 北方史史料集成 2. 716 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 秋葉實(解説)・松浦武四郎(著). 1994. 松浦武四郎知床紀行集: 松浦武四郎没後百年記念. 97 pp. 斜里町立知床博物館協力会, 斜里.
- 秋葉實(翻刻・編)・松浦武四郎(著). 1997. 蝦夷訓蒙図彙・蝦夷山海名産図会. 松浦武四郎選集 2. 425 pp. + 10 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 秋葉實(翻刻・編)・松浦武四郎(著). 1999a. 校訂蝦夷日誌 1. 522 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 秋葉實(翻刻・編)・松浦武四郎(著). 1999b. 校訂蝦夷日誌 2. 510 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 秋葉實(翻刻・編)・松浦武四郎(著). 2001. 辰手控 1-8. 松浦武四郎選集 3. 545 pp. 北海道出版

- 企画センター, 札幌.
- 秋葉實(翻刻・編)・松浦武四郎(著). 2004. 巳手控1-7. 松浦武四郎選集4. 403 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 秋葉實(翻刻・編)・松浦武四郎(著). 2007. 午手控1(1-11). 松浦武四郎選集5. 488 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 秋葉實(翻刻・編)・松浦武四郎(著). 2008. 午手控2(12-18), 外1-3. 松浦武四郎選集6. 468 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 稲葉一郎(解説)・玉虫左太夫(著). 1992. 入北記: 蝦夷地・樺太巡見日誌. 330 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 井上隆明(訳)・工藤平助(原著). 1979. 赤蝦夷風説考: 北海道開拓秘史. 教育社新書原本現代訳101. 294 pp. 教育社, 東京.
- 内田武志・宮本常一(編). 1971. 菅江真澄全集2. 496 pp. 未来社, 東京.
- 大蔵省. 1885(復刻1981-1985). 開拓使事業報告1-5, 附録上下. 642 pp., 946 pp., 1040 pp., 684 pp., 724 pp., 1260 pp., 1258 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 大槻玄沢・志村弘強(編). 1989. 環海異聞. 594 pp. 八坂書房, 東京.
- 大友喜作(編・解説・校訂). 1943(復刻1972). 北門叢書1. 410 pp. 国書刊行会, 東京.
- 大野良子(校註)・成石修(著). 1978. 東徼私筆. 281 pp. 政界往来社, 東京.
- 加藤九祚. 1974. シベリアに憑かれた人々. 234 pp. 岩波書店, 東京.
- 亀井高孝(校訂)・桂川甫周(著). 1965(文庫版1990). 北槎聞略: 大黒屋光太夫ロシア漂流記. 岩波文庫青456-1. 岩波書店, 東京.
- 川上淳. 1996. 18世紀-19世紀初頭の千島アイヌと千島交易ルート. 北海道・東北史研究会(編), メナシの世界: 根室シンポジウム「北からの日本史」. pp. 158-238. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 北構保男. 1982. 千島・シベリア探検史. 252+2 maps. 名著出版, 東京.
- 北構保男. 1983. 1643年アイヌ社会探訪記: フリース船隊航海記録. 170 pp. 雄山閣, 東京.
- クルーゼンシュテルン. 1809-1813(青地盈訳・高橋景保校1985) 奉使日本紀行. 蝦夷・千島古文書集成: 北方未公開古文書集成5. 234 pp. 教育出版センター, 東京.
- 河野常吉(編著). 1898(復刻1975). 北海道殖民状況報文: 北見国. 河野常吉著作集別巻2. 169 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 郡山良光. 1980. 幕末日露関係史研究. 372 pp. 国書刊行会, 東京.
- ゴロウニン W. M. 1816(徳力真太郎訳1984). 日本俘虜実記上下. 講談社学術文庫634-635. 317 pp., 275 pp. 講談社, 東京.
- 国書刊行会(編)・近藤重蔵(著). 1905(復刻1976). 近藤正齋全集1. 第一書房, 東京.
- 国書刊行会(編). 1913. 通航一覽7. 546 pp. 国書刊行会, 東京.
- 佐々木利和(編). 1988. アイヌ語地名資料集成. 543 pp., 29 pls. 草風館, 東京.
- 佐藤淳二(訳)・ラペルーズ(著). 2006. ラペルーズ太平洋周航記上下. シリーズ世界周航記7-8. 257 pp., 486+7 pp. 岩波書店, 東京.
- 佐藤喜代吉. 1890. 北海道旅行記1. 155 pp. 北友社, 出版地不明.
- 斜里町史編纂委員会(編). 1955. 斜里町史1. 939 pp. 斜里町, 斜里.
- 高倉新一郎(編). 1969. 探検・紀行・地誌: 北辺篇. 日本庶民生活史料集成4. 821 pp. 三一書房, 東京.
- 高倉新一郎. 1972. アイヌ政策史(新版). 616 pp + viii. 三一書房, 東京.
- 高倉新一郎(解説)・吉田健作(著). 1974-1975. 北海道紀行 上中下. 新しい道史64: 24-32; 65: 29-32; 66: 33-40.
- 高倉新一郎(解説)・松浦武四郎(著). 1978. 竹四郎廻浦日記下. 608 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 田中最勝. 1958. 原史時代篇. 網走市史編纂委員会(編). 網走市史上. pp. 283-1294. 網走市役所, 網走.
- 田中最勝(現代語訳)・高倉新一郎(解説)・斎藤勝

表 1. 知床・斜里近世年表.

西暦	和暦	知床・斜里の訪問者・記録・出来事	北海道の文献・出来事ほか	場所請負人	蝦夷地行政
1700	元禄13	「松前島郷帳(元禄郷帳)」に「しろい所、るうしや、しやる」などの記載(田中1958, 344-346)			
1731	享保16	「津軽一統志」(北海道1969, 148-149)にシャクシャインの乱(1669)で「ちやる村」「しれとこ村」から加勢			
1775	安永4	村山伝兵衛が斜里に漁場開く?	幕府東西蝦夷地, 樺太, 択捉・得撫島調査(翌年まで)		
1785	天明5	幕府調査隊が斜里沖通過→「蝦夷拾遺」(大友1943; 井上1979)			
1789	寛政1	クナシリ・メナシの戦い(根室シンボジウム実行委員会1990)	新井田孫三郎「寛政蝦夷乱取調日記」(高倉1969), 菅江真澄道南旅行(内田・宮本1971)		
1790	寛政2	<b>シャリ場所分設</b>	<b>崎波響「夷酋列像」</b> , 最上徳内「蝦夷国風俗人情之沙汰」(蝦夷草紙)(高倉1969), カラフト場所開設	村山伝兵衛	
1792	寛政4		アダム・ラックスマン根室来航(国書刊行会1913, 91-103)		
1793	寛政5		申原正峯「夷諺俗話」(高倉1969)	小山権兵衛	
1796	寛政8	「西蝦夷地分置」にシャリ場所概要, 斜里神社社祠寄進(町指定文化財)			
1797	寛政9	高橋社四郎「蝦夷巡覽筆記」		板垣豊四郎	
1798	寛政10	谷口青山「沿岸二十三図」	最上徳内・近藤重蔵択捉島調査		
1799	寛政11		木村謙次「蝦夷日記」択捉随行記(山崎1986)	松前藩直営	<b>東蝦夷地幕府直轄</b>
1800	寛政12	水谷某「蝦夷土産」	<b>秦權丸(村上島之允)「蝦夷島奇観」</b>	管理人は高橋社四郎ら	
1801	享和1	磯谷則吉「蝦夷道中記」, 斜里神社「歌枕額」(町指定文化財)	東蝦夷地に蝦夷三官寺建立(善光寺, 等廻院, 国泰寺), クルーゼンシュテルン宗谷上陸, 同乗のレザノフ長崎来航		
1804	文化1				
1807	文化4	<b>津軽藩士殉難事件</b> 「松前詰合日記」(田中・高倉1982), 松田伝十郎斜里巡視, 最上徳内斜里越年	フォストフ択捉島・樺太・利尻島襲撃(前年も樺太襲撃), 「休明光記」(北海道庁1936a)		<b>東西蝦夷地幕府直轄</b> (松前奉行の管轄)

表 1. 続き.

西暦	和暦	知床・斜里の訪問者・記録・出来事	北海道の文献・出来事ほか	場所請負人	蝦夷地行政
1808	文化5		北海道の文献・出来事ほか		
1809	文化6	シャリ場所死亡人控(町指定文化財)	最上徳内「渡島筆記」(高倉1969), 松田伝十郎・間宮林蔵樺太探検	藤野喜兵衛・西川准兵衛・坪田左兵衛	
1812	文化9	津軽藩士供養費建立(町指定文化財)	間宮林蔵アムール探検→「東韃地方紀行」(高倉1969)		
1821	文政4		間宮林蔵西蝦夷地海岸測量	藤野単独(文化12-)	
1834	天保5	斜里神社石灯笼寄進			松前藩領
1845	弘化2	武四郎東蝦夷地を知床岬まで踏査「蝦夷日誌」(秋葉1999a, 459-466; 1999b, 370-378)			
1846	弘化3	武四郎西蝦夷地を知床岬まで踏査「再航蝦夷日誌」(秋葉1994)			
1854	安政1	村垣範正(淡路守)「公務日記」	喜多野省吾『蝦夷地全図』(知床博物館蔵)		(箱館奉行設置)
1855	安政2				<b>東西蝦夷地幕府直轄</b> (箱館奉行の管轄)
1856	安政3	武四郎斜里山道踏査「廻浦日記」(松浦1978, 2001), 窪田子蔵「協和私役」(高倉1969), 石川和助「観国録」			
1857	安政4	島義勇「入北記」, 玉虫左太夫「入北記」(稲葉1992), 成石修「東徼私筆」(大野1978)	武四郎道南から石狩川・天塩川踏査「丁巳日誌」(秋葉1982; 秋葉2004)		
1858	安政5	武四郎羅臼から知床半島一周「戊午日誌」(秋葉1985, 11-83; 2007; 2008), 目賀田常刀「延叙歴檢真図」			
1859	安政6	「加賀家文書」(秋葉1989)	<b>武四郎『東西蝦夷山川地理取調図』</b> (佐々木1988), 箱館開港		<b>六藩分領</b> (斜里は会津藩領)
1862	文久2	吉本善京「斜里神社絵馬」(町指定文化財), 「シャリ場所家蔵引渡帳」	武四郎「蝦夷訓蒙図彙」, 「蝦夷山海名産図会」(秋葉1997)	山田寿兵衛	
1863	文久3	松浦武四郎『知床日誌』(秋葉1994)			

<sup>a</sup> 『村山家旧記』によれば[中略]村山家では1755(安永4)年に斜里に漁場を新設したというふことになつてゐる」(斜里町史編纂委員会1955, 80).

表2. 蝦夷地・北方探検年表.

西暦	和暦	斜里・知床	日本の北方探検, 出来事	外国の北海道・千島の探検・航海	蝦夷地行政
1618	元和4				<b>松前藩領</b>
1643	寛永20			アンジェリス(ポ) 松前訪問(チースリク 1962)	
1685	貞享2		ソウヤヤ場所開設	ド・フリース(オ) 厚岸入港(北構 1983)	
1701	元禄14		キイタツツ場所開設		
1711	正徳1			コズレフスキー 占守島到達	
1721	享保6			エズレイノフ・ルージン 新知島到達	
1739	元文4			シュパンベルクら 宮城と千葉で日本人と接触(国書刊行会 1913, 79-90)	
1750	寛延3		村山伝兵衛 ソウヤヤ場所請負		
1754	宝暦4		クナシリ場所開設, ノッカマップに交易所		
1762	宝暦12			チョールヌイ 択捉島到達	
1770	明和7			得撫島でロシア人とアイヌとの間で闘争	
1775	安永4	村山伝兵衛が斜里に漁場開く?		得撫島に根拠地建設	
1778	安永7			シャバリン 根室来訪(国書刊行会 1913, 79-91)	
1779	安永8			シャバリン 厚岸来訪, クック(英) 第三次航海(北方探検)(増田 2005)	
1782	天明2		大黒屋光太夫遭難→「北檜聞略」		
1783	天明3		工藤平助「赤蝦夷風説考」(寺沢ら 1978; 井上 1979)		
1785	天明5		幕府東西蝦夷地・樺太調査(翌年まで)		
1786	天明6		最上徳内 択捉・得撫島調査, 林子平『三国通説図説』(寺沢ら 1978)		
1787	天明7				ラ・ペルーズ(仏) 宗谷海峡通過(佐藤 2006)
1789	寛政1	クナシリ・メナシの戦い			
1790	寛政2	シャリ場所分設, カラフト場所独立			
1792	寛政4		大黒屋光太夫を乗せアダム・ラックスマン 根室入港(ポロンスキイ 1871; ポロンスキー 1871)		
1793	寛政5		津太夫遭難→「環海異聞」		
1794	寛政6		「北檜聞略」(亀井 1965)		

表2. 続き.

西暦	和暦	斜里・知床	日本の北方探検, 出来事	外国の北海道・千島の探検・航海	蝦夷地行政
1796	寛政8				
1798	寛政10		最上徳内・近藤重蔵択捉島調査	プロートン(英)北海道沿岸測量 露米会社設立	
1799	寛政11				<b>東西蝦夷地幕府直轄</b>
1800	寛政12		伊能忠敬東蝦夷地西別まで測量		
1801	寛政13		得撫島でロシア人に退去勧告		
1804	文化1		東蝦夷地に蝦夷三官寺建立, 「辺要分界図考」(国書刊行会 1905)	クルーゼンシュテルン宗谷上陸, 同乗のレザノフ 長崎来航・津太夫帰国(国書刊行会 1913, 126-176)	
1805	文化2		斎藤蔵太択捉島滞在「衛刀魯府志」	クルーゼンシュテルン樺太調査(クルーゼンシュ テルン 1809-1813)	
1806	文化3			フォストフ樺太襲撃(露冠事件)(国書刊行会 1913, 217-284)	
1807	文化4		<b>津軽藩士殉難事件</b>		<b>東西蝦夷地幕府直轄</b>
1808	文化5		「環海異聞」(大槻・志村 1989)	フォストフ択捉島・樺太・利尻島襲撃(露冠事件) (国書刊行会 1913, 217-284)	(松前奉行の管轄)
1809	文化6		松田伝十郎・間宮林蔵樺太探検		
1811	文化8		間宮林蔵アムール探検→「東鞆地方紀行」(高倉 1969)		
1818	文政1		ゴロウニン事件(高田屋嘉兵衛誘拐, 1813決着)(ゴ ロウニン 1816)		
1821	文政4		斜里のアイヌを国後島 へ送る		
1853	嘉永6		「大日本沿海輿地全図」		<b>松前藩領</b>
1855	安政2				
1858	安政5		武四郎「戊午日誌」(秋葉 1985, 11-83)	〈ペリー(米)来航(ペリー 1856)〉ブチャーチン来 航, 樺太久春古丹占拠	<b>東西蝦夷地幕府直轄</b> (箱館奉行の管轄)
1859	安政6		武四郎『東西蝦夷山川地理取調地図』(佐々木 1988)	箱館開港	<b>六藩分領</b> (斜里会津 藩領編入)

a. 『村山家日記』によれば「中略」村山家では1755(安永4)年に斜里に漁場を新設したというふことになつてゐる」(斜里町史編纂委員会 1955, 80).

表3. 斜里・知床近代初期年表.

西暦	和暦	知床・斜里の訪問者・記録・出来事	北海道の文献・出来事	斜里の行政	北海道行政
1866	慶応2	会津藩硫黄採掘			
1868	明治1				箱館裁判所
1869	明治2	ブラキストン北海道周回(ブラキストン1883, 270-285)	国郡設定命名		開拓使
1870	明治3		『官板実測日本地図』		
1871	明治4	松本十郎北見巡視「北海道北見国日誌」「北見州経験誌」(永井1969)			
1872	明治5		太陽暦の採用(12月3日を6年1月1日)	村の区画, 官吏1名配置	
1873	明治6		開拓使根室支庁網走出張所開設		
1874	明治7	ライマン知床硫黄山調査「来蔓氏北海道記事」(開拓使1936b, 356-370)	開拓使「地誌提要」		
1875	明治8	村名を漢字表記化, 松本十郎北見巡視「北海道巡回日誌」	樺太千島交換条約締結, 時任為基千島派遣(新知島上陸)		
1876	明治9		長谷部辰連・時任為基千島調査「明治九年千島三郡取調書」(高倉1969)		
1877	明治10	鈴木養太入殖(農民第1号)		浦役場開設	
1878	明治11	皆月善六による硫黄採掘開業, 「北見国斜里・網尻両郡土人徴萃概目」	『北海道国郡全図』		
1879	明治12	酒井忠郁北見巡視「北地履行記」			
1880	明治13	知床硫黄山硫黄噴出, 採掘事業軌道に		戸長役場開設	
1882	明治15	吉田健作「北海道紀行」(高倉1975, 34-35)			三県一局(斜里は根室県)
1883	明治16		「北見国漁場統計」		
1884	明治17		大蔵省『北海道郡区沿革表』		
1885	明治18		金子堅太郎「北海道三県巡視復命書」(北海道庁1936b), 『開拓使事業報告』(大蔵省1885)		
1886	明治19				北海道庁
1887	明治20	この頃からオヒョウ・タラ, ホタテ漁本格化			
1888	明治21	米国人がアイヌを撮影(ヒッチコック1985), 「漁場実測図」			
1889	明治22	植民地選定調査(北海道庁第二部殖民課1891)			
1890	明治23	佐藤喜代吉『北海道旅行記』(佐藤1890, 52-66), 殖民状況調査(河野1898)			
1898	明治31	斜里原野・アッカソベツ原野開放(公式入殖開始)			

表4. 知床周辺や北方探検に関する出来事や史料の年次分布.

1618	アンジェリス松前訪問 <sup>Ⓐ</sup>	1754	クナシリ場所開設 <sup>Ⓑ</sup>
1619		1755	
1620		1756	
1621		1757	
1622		1758	
1623		1759	
1624		1760	
1625		1761	
1626		1762	
1627		1763	
1628		1764	
1629		1765	
1630		1766	
1631		1767	
1632		1768	
1633		1769	
1634		1770	
1635		1771	
1636		1772	
1637		1773	
1638		1774	
1639		1775	
1641		1776	西蝦夷地分間, 斜里神社祠寄進 <sup>Ⓐ</sup>
1642		1777	
1643	フリース北海道樺太調査 <sup>Ⓒ</sup>	1778	シャリパン根室来航 <sup>Ⓒ</sup>
1644		1779	クック第3次航海(北方探検)日本東岸望見 <sup>Ⓒ</sup>
1645		1780	
1646		1781	
1647		1782	大黒屋光太夫遭難 <sup>Ⓑ</sup>
1648		1783	
1649		1784	
1650		1785	佐藤玄六郎が斜里沖通過 <sup>Ⓐ</sup>
1651		1786	最上徳内千島探査 <sup>Ⓑ</sup>
1652		1787	ラ・ペルーズ宗谷海峡通過 <sup>Ⓒ</sup>
1653		1788	
1654		1789	クナシリメナシの戦い(寛政蝦夷乱) <sup>Ⓐ</sup>
1655		1790	シャリ場所分設 <sup>Ⓐ</sup> 「蝦夷国風俗人情之沙汰」 <sup>Ⓑ</sup>
1656		1791	
1657		1792	大黒屋光太夫とアダム・ラックスマン根室来航 <sup>Ⓒ</sup>
1658		1793	「夷諺俗話」 <sup>Ⓑ</sup>
1659		1794	
1660		1795	
1661		1796	プロートン北海道海岸調査 <sup>Ⓒ</sup>
1662		1797	
1663		1798	最上徳内・近藤重蔵千島探査 <sup>Ⓑ</sup>
1664		1799	
1665		1800	「蝦夷島奇観」 <sup>Ⓑ</sup>
1666		1801	
1667		1802	
1668		1803	
1669		1804	蝦夷三官寺建立 <sup>Ⓑ</sup> クルーゼンシュテルン宗谷上陸 <sup>Ⓒ</sup>
1670		1805	
1671		1806	フォストフ樺太襲撃(露寇事件) <sup>Ⓒ</sup>
1672		1807	津軽藩士殉難事件 <sup>Ⓐ</sup> 東西蝦夷地幕府直轄 <sup>Ⓑ</sup>
1673		1808	間宮林蔵樺太探査 <sup>Ⓑ</sup>
1674		1809	間宮林蔵アムール探査 <sup>Ⓑ</sup>
1675		1810	
1676		1811	ゴロウニン事件 <sup>Ⓒ</sup>
1677		1812	
1678		1813	
1679		1814	
1680		1815	
1681		1816	
1682		1817	
1683		1818	斜里のアイヌを国後島へ送る <sup>Ⓐ</sup>
1684		1819	
1685		1820	
1686		1821	
1687		1822	
1688		1823	
1689		1824	
1690		1825	
1691		1826	
1692		1827	
1693		1828	
1694		1829	
1695		1830	
1696		1831	
1697		1832	
1698		1833	
1699		1834	
1700	元禄郷帳に知床や斜里の記載 <sup>Ⓐ</sup>	1835	
1701	キイタツ場所開設 <sup>Ⓑ</sup>	1836	
1702		1837	
1703		1838	
1704		1839	
1705		1840	
1706		1841	
1707		1842	
1708		1843	
1709		1844	
1710		1845	武四郎知床調査 <sup>Ⓐ</sup>
1711		1846	武四郎知床調査 <sup>Ⓐ</sup>
1712		1847	
1713		1848	
1714		1849	
1715		1850	
1716		1851	
1717		1852	
1718		1853	ペリー、プチャーチン来航 <sup>Ⓒ</sup>
1719		1854	
1720		1855	
1721		1856	武四郎知床調査, 「協和私役」観国録 <sup>Ⓐ</sup>
1722		1857	「入北記」 <sup>Ⓐ</sup>
1723		1858	武四郎知床調査 <sup>Ⓐ</sup>
1724		1859	
1725		1860	
1726		1861	
1727		1862	「斜里神社絵馬」奉納 <sup>Ⓐ</sup>
1728		1863	武四郎『知床日誌』 <sup>Ⓐ</sup>
1729		1864	
1730		1865	
1731	「津軽一統志」に知床や斜里の記載 <sup>Ⓐ</sup>	1866	
1732		1867	
1733			
1734			
1735			
1736			
1737			
1738			
1739	シュバンベルク来航 <sup>Ⓒ</sup>		
1740			
1741			
1742			
1743			
1744			
1745			
1746			
1747			
1748			
1749			
1750			
1751			
1752			
1753			

<sup>Ⓐ</sup>知床・斜里の出来事(太字). <sup>Ⓑ</sup>日本の北方探検, 出来事. <sup>Ⓒ</sup>外国人による蝦夷地探査.

- 利 (著). 1982. 松前詰合日記全 (第2版). 70 pp. 津軽藩士殉難慰霊碑を守る会, 斜里.
- チースリク H. (編)・岡本良知 (訳). 1962. 北方探検記: 元和年間に於ける外国人の蝦夷報告書. 122 pp + 42 pp. 吉川弘文館, 東京.
- 寺沢一・和田敏明・黒田秀俊 (編). 1978. 北方未公開古文書集成 3. 206 pp. 叢文社, 東京.
- 永井信 (解説)・松本十郎 (著). 1969. 北見州経験誌 1-2. 新しい道史 35: 22-32; 36: 28-37.
- 根室シンポジウム実行委員会 (編). 1990. 三十七本のイナウ: 根室シンポジウム「クナシリ・メナシの戦い」寛政アイヌの蜂起200年. 343 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- ヒッチコック R. 1890 (北構保男訳 1985). アイヌ人とその文化: 明治中期のアイヌ村から. 世界の民族誌 1. 251 pp. 六興出版, 東京.
- ブラキストン T. W. 1883 (近藤唯一訳 1979). 蝦夷地の中の日本. 633 pp. 八木書店, 東京.
- ペリー M. 1856 (オフィス宮崎編訳 2009). ペリー艦隊日本遠征記 上下. 601 pp., 518 pp. + xv. 万来舎, 東京.
- 北海道 (編). 1969. 史料 1. 新北海道史 7. 1426 pp. 北海道, 札幌.
- 北海道庁 (編). 1936a. 史料 1. 新撰北海道史 5. 1546 pp. 北海道庁, 札幌.
- 北海道庁 (編). 1936b. 史料 2. 新撰北海道史 6. 1064 pp. 北海道庁, 札幌.
- 北海道庁第二部殖民課. 1891 (復刻 1986). 北海道殖民地撰定報文 1. 405 pp. 北海道出版企画センター, 札幌.
- ポロンスキイ A. S. 1871 (駐露日本公使館訳・林欽吾補註 1953, 復刻 1974). ロシア人日本遠訪記. 附篇: 日本北地の古文化と種族 (林欽吾著). 356 pp. 原書房, 東京.
- ポロンスキイ A. S. 1871 (榎本武揚 [他] 訳 1985) 千島誌. 蝦夷・千島古文書集成: 北方未公開古文書集成 7. 209 pp. 教育出版センター, 東京.
- 増田義郎 (訳)・クック J. (著). 2005. 第3回航海上下. 太平洋探検 5-6. 岩波文庫青 485-5-6. 366 pp., 308 pp. 岩波書店, 東京.
- 山崎栄作 (編). 1986. 蝦夷日記. 木村謙次集上. 340 pp. 私刊, 十和田.
- 若尾俊平・浅見恵・西口雅子 (編). 1972. 近世古文書解読字典 (増訂版). 387 pp. 柏書房, 東京.